

業界No.1の実績！ アクアフォーム

現場発泡断熱材

夏は涼しく！
冬は暖かく！



水から生まれた環境にやさしい断熱材

通常はフロンガスを使用して発泡させることが多いウレタンの断熱材。アクアフォームは水との化学反応を利用して現場で発泡成形します。これにより柱と柱の間や、細かい部分にも隙間なく充填し隙間から逃げる暖気、冷気を抑制します。また、素材がスポンジにも使われるウレタンなので有害物質やホルムアルデヒドも発生しない為、住む人にも加工者にも安心な断熱材です。

項目	断熱材品種	熱伝導率 w/mk	住宅金融支援機構工事仕様書断熱区分	相当断熱厚み割合
アクアフォーム	建築物断熱用吹付硬質ウレタンフォームA種3	0.034	D	100
フェノールフォーム	フェノールフォーム	0.020	F	58
繊維系断熱材(グラスウール)	10K	0.050	A-2	147
	16K	0.045	B	132
	24K	0.038	C	112

※熱伝導率は熱の伝わりやすさを表すもので数値が小さいほど断熱性に優れています。
※(独)住宅金融支援機構監修の工事仕様書の断熱区分はA~Fの6段階でFに近くなるほど断熱性に優れています。
※(独)住宅金融支援機構の断熱材品種は区分Cですが、性能値よりD区分となります。
※相当断熱厚み割合とはアクアフォームを100とした場合に同等の断熱性を確保するために必要な厚みを表します。

気密性能

住宅の躯体に直接吹付発泡施工するアクアフォームは隙間なく一体化した断熱材構造で、優れた気密性を発揮します。また、他の断熱材にはない自己接着力を持っています。

相当隙間面積C値 (cm ² /m ²)
2.0以下※

※住宅の省エネルギー基準に基づいてアクアフォームを施工した場合

施工例



従来の断熱材 ▶ 細かい隙間は難しい
アクアフォーム ▶ 現場発泡で隙間なし

サーモグラフィー 実験で検証!

実験1. エアコン25℃設定で15時間 作動させ停止後の表面温度を測定 (暖房停止後 約30分)

撮影時間帯の平均外気温: 2.8℃
●撮影日時: 2011年1月21日 16:30~19:30



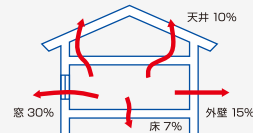
※5℃以上の差

※測定値であり、保証値ではありません

身近な環境問題、住宅のエネルギーロス。

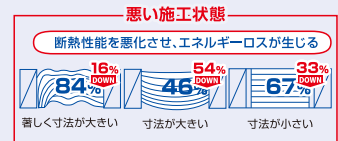
日本の住宅は断熱性と気密性に劣っており、冬季では暖房室と非暖房室の、温度差が大きくなります。下記の図のとおり、壁を断熱しても窓に無関心だと、窓放熱による熱損失が生じてしまいます。

▶熱が逃げる部位の割合 すき間 38%



すき間のない正しい施工で、年中快適な住宅を。

良い施工状態
断熱性能100%
アクアフォームはすき間や施工ムラが少なく身近なエコを実現



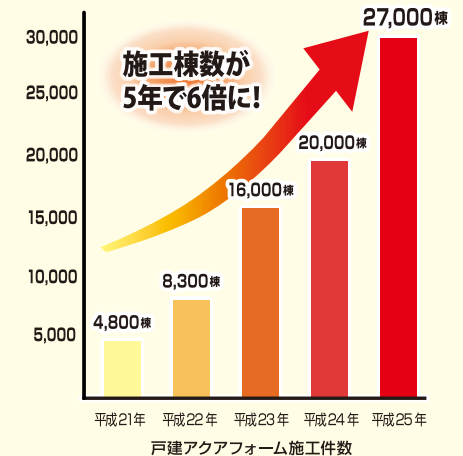
断熱材の詰め込み過ぎ、押し込み過ぎは、すき間がある状態よりも断熱性能を悪化させることがあります。アクアフォームは、無数の細かい連続気泡で構成された硬質ウレタンフォームを現場吹付け発泡し、隅から隅まで家全体をすっぽり覆いますので、すき間や性能の低下の心配がありません。

さらに
アクアフォームなら
ココに注目!

- 1 準耐火認定取得!!
※外壁・内装材との複合認定
- 2 ヒートショック予防に高い効果!!
- 3 省エネなスマートハウスが実現!!

前年比 120%!
2014年は
約32,000棟 (木造)

施工実績の年推移



株式会社 日本アクア

〒108-0075 東京都港区港南2丁目16番2号 太陽生命品川ビル20階
TEL: 03-5463-1117 (代表) FAX: 03-5463-1118

<http://www.n-aqua.jp>

アクアフォーム 検索